

REHSE
**高校生による環境安全とリスクに
関する自主研究活動の支援事業**

イメージ



事業の目的 (対象: 高等学校・高等専門学校)

目的

学習活動の充実

知識の
習得

知識の
活用

探求心

自主研究活動支援



目標

環境安全とリスクに関する

知識の
習得

思考力

判断力

表現力

育成



高校生の環境安全とリスクに対する理解促進の一助



平成26年度スケジュール(予定)

5月上旬 参加高校決定 原則、公募審査による 5~10校程度

※事務局による見学施設調整、出前講師

手配等の業務軽減のためメンター制を導入

5月頃 自主研究活動開始

※施設見学、出前講義、等

11月頃 中間報告(メンターによる事業事務局への活動報告)

10月~1月頃 学校文化際、地域文化際などでの成果発表、報告

1月末 活動報告書 提出締切

2月上旬 審査会 優秀校の選定(予算により枠を決定)

2月下旬から3月中旬の週末 優秀校発表会、合同施設見学会



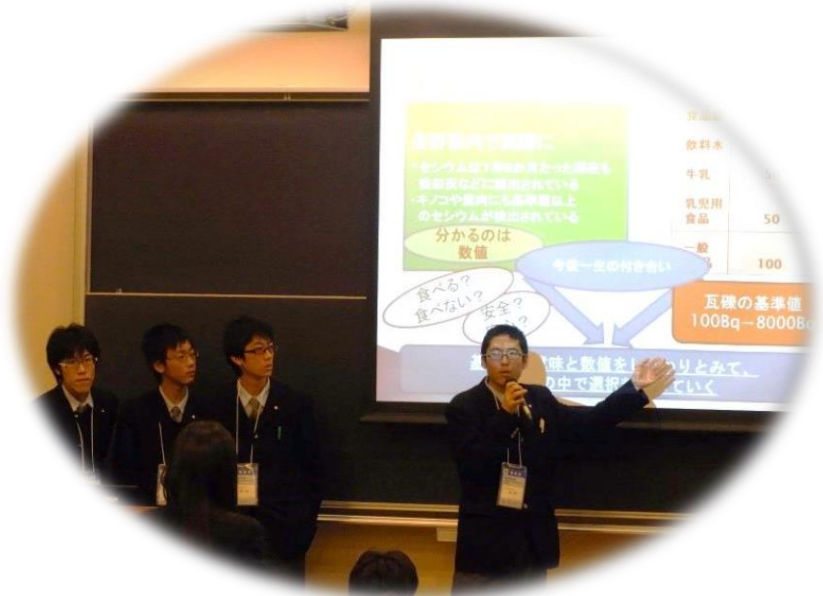
専門家による出前講義、企業工場や研究施設の見学(イメージ)





優秀校発表会のイメージ(平成27年2月～3月頃開催)

※研究報告書の審査の結果、上位校による発表会と意見交換会を東京大学(予定)にて



メディアを使っての本支援事業の公表も視野に入りたい

放射線をテーマにした類似プロジェクトの広報例

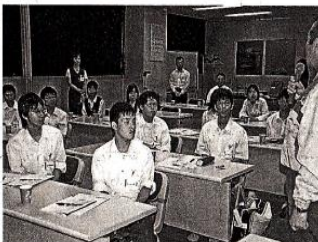
※内閣府HPIにて掲載

※京都新聞掲載

2012年(平成24年)6月20日 水曜日

放射線測定 開発者から学ぶ

桃山高生 旧巨椋池調査に生かす



放射線測定器の担当技術者から話を聞く桃山高グロウバルサイエンス部の生徒たち(京都府中川区) 堀場製作所

放射線量の違いから巨椋池の形状を調査している桃山高(京都府中川区)のグロウバルサイエンス部の生徒たちが18日夜、堀場製作所の放射線測定器を借用している。南

放射線測定器の担当技術者から話を聞く桃山高グロウバルサイエンス部の生徒たち(京都府中川区) 堀場製作所

区同社を訪れた。調査結果を説明し、技術者から、正確な測定方法を学んだ。

部員13人は、展示された製品を見学。放射線測定器の開発担当技術者たちを前に、かつ

て巨椋池があった区や宇治市で放射線測定し、その低を測り、その界を確かめた。

また、「放射線に流れ込む花や草から出ていると知られる。池の南北で線量の高さがあるのはなぜか突き止める」と今後の課題を説明した。

部の2年伊藤優花さん(16)は「聞いた話を参考に測定方法をより正確にしたい」と話し、3年西海拓君(17)は「見学で見せてもらった成分分析装置で土を調べれば、線量の違いの由来が分かる」と期待している(堀井進)



高校生から研究成果の説明を受ける(桃山高グループ)

平成25年3月16日、山本大臣は京都で開催された「科学少年」に科学技術の魅力アピールする催しです。

山本大臣は開会式で挨拶を述べ「このフェスタを通じて嬉しい。」とメッセージを送りました。

その後、大臣は展示会場を視察し、2012年のイグノーベルから自作ロボットや研究成果の説明を受けました。

2012年(平成24年)12月30日(日曜日) (15)

工大二高2年 上野、小泉さん研究

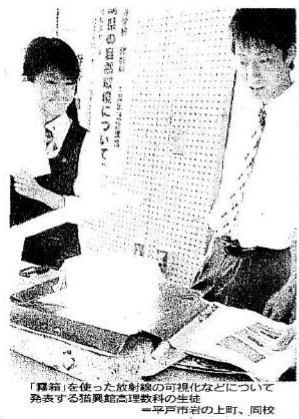


放射線での発電可能?

東大で成果発表 高評価励みさらなる意欲

放射線を利用した発電の可能性について、東大の学生が発表した。高評価を受け、さらなる意欲を燃やしている。

放射線の可視化実験など



平戸の猶興館高 理数科創設10周年

1、2年生 研究発表

これまで264人が卒業している平井邦彦さん(50)の研究発表には理数科1、3年の計100人が参加。2年生は「放射線とエネルギー」をテーマに、放射線を可視化する実験に挑戦。室内を歩く、放射線の線量とトリウムを測定しました(平井邦彦)

※長崎新聞掲載

松本 エクセラン高公開授業



放射線テーマ意見白熱

「放射性廃棄物の最終処分場が自分の居住地域に来たらどうか」などをテーマに議論する生徒たち

松本市のワセナ新校舎で、放射線に関する公開授業が行われた。生徒たちは、放射線に関する意見を白熱して議論した。

真剣討論 中学生が

放射線に関する議論が白熱した。生徒たちは、放射線に関する意見を白熱して議論した。

※信濃毎日新聞掲載

※デーリー東北掲載